

佳作

## たくす命

宮城県 仙台市立加茂中学校一年 赤間 心琴

私の家の前に今年初めて、ツバメが巣を作りました。そこで、私を感じた感動です。

夏休みに入る二週間前くらいに二羽のツバメが家の前に巣を作り始めました。一日中、日が暮れるまで巣材となる小枝や葉を運んでいました。私は、とてもふしぎでたまりませんでした。それは、なぜこんな人の出入りの多いうるさい所に巣を作るのだろうと、そして私はおじいちゃんに聞いてみました。すると驚くことに

「ツバメはカラスなどから身を守るためにわざと出入りの多い所に巣を作るんだよ。」

と教えてくれました。私はなんかツバメに選ばれた感じがして、うれしくてたまらなくなりました。

それから三週間くらいたったある日のことでした。ツバメが親鳥となり無事に何びきかのひなを産みま

した。「ピーピー」と朝からかわいらしいひなの鳴き声が聞こえてきます。そんな平和なある日に私はある大変なことに気付きました。何びきかいたはずのひなが、一びきに減ってしまっていることです。初めそのことを知った時は、くやしくてたまりませんでした。でも、自然界に首をつっこんではいけないとだまって目をつむりました。

残された一びきのひなに思いをたくすしかありません。けれどそんなある日のことです。私が朝の八時ごろに家の外へ出ると、ひながドアのかどにいるのを発見しました。よく考えると昨夜は台風で風が強かったので、地面に落ちてしまったのだと思います。それも、二メートルくらいある高さから落ちたみたいなのです。けれど、当たりどころがよく、きたい背中だったので生きていました。その後、歯をくいしばり、やっこの思いで安全なドアのかどに移動していたようなのです。私がひなを見つけた時には、かなり弱っていてやっと呼吸をしてみてくださいもふるえていました。その様子を見ていた親鳥たちは、いつもより大きな鳴き声で「ピーピー」と鳴いていました。それはまるで私に助けを求めているかのようでした。私はひなの必死に生きようとする姿と、

親鳥の必死に助けようとする姿にとても感動しました。私は、すぐに軍手をはめて、台を持ってきてひなをやさしくかかえて「生きろ」「生きろ」と心の中で言いながら巣の中に戻してやりました。

翌日、私は朝にドアをあけて見てみると、元気に「ピー」と鳴いて口をあけているひなの姿が目につりました。私の思いがひなへ届いたのにとても感動しました。

私は、ツバメのひなが元気に巣立って、来年またこの場所に戻って、新しい命を産んでほしいなと思いました。